

株主メモ

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日 中間配当金／毎年8月20日
公告方法	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031

株主優待



株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたしまして、毎年2月20日現在の株主名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様方に対し、下記のとおり株主様ご優待品を進呈いたしております。

300株以上	1,000株未満	1,000円のクオカード
1,000株以上		3,000円相当のカタログギフト

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成 20 年 2 月 15 日
登録番号 C 0 0 2 4

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

上場株式等の配当等に係る10%（所得税7%、住民税3%）軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率（所得税7%、住民税3%）は廃止され、本来の税率である20%（所得税15%、住民税5%）となりました。
これにより、2014年1月1日から2037年12月31日までは「復興特別所得税」を含め20.315%の源泉徴収税率が適用されます。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設しております。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

- *配当金に関する支払調書
 - *単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
- マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。
株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。

～ Doing it ～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



第36期 報告書
[2020.2.21.～2021.2.20.]





コロナ禍での再成長を目指し、 全社をあげて反転攻勢をかけてまいります

代表取締役社長 **吉田 馨**

指針

正しい経営
安定成長
ローコスト経営
人財経営

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社グループ第36期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第36期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、企業収益や雇用情勢の悪化に加え、外出自粛に伴う消費活動の停滞が断続的に発生するなど、極めて厳しい環境で推移しました。

当社グループが属する専門店業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大を背景に、インバウンド需要が消失するほか、各種イベントの中止、外出自粛等の影響からファッションに対する需要が大幅に減少する一方で、巣ごもり消費への関心が高まり、Eコマース市場が継続的に拡大するなど、リアル店舗の環境は一部の業態を除いて厳しい事業環境で推移しました。

このような環境の中、当社グループにおきましては、当期を最終年度として取り組んできた「中期経営計画」を取り下げ、コロナ禍で崩れた需給バランスを修正すべく在庫コントロールの適正化に注力するとともに、グループをあげてコスト削減に努めるほか、公的な支援の活用についても注力してまいりました。また、ファッション需要の回復が見込めない状況が続いたことから、雑貨事業の店舗を中心に衛生関連商品の販売や、家で過ごす時間が増えたことによる「イエナカ消費」を意識した商品の販売を強化してまいりました。

第36期におきましては、特にアパレル事業におきまして、コロナ禍における客数減の影響から大幅な減収となるほか、期中でのMD(マーチャндаイジング)の修正が図れず、商品鮮度の悪化を招く結果となり課題を残しました。一方、雑貨事業におきましては、コロナ禍で発生した新たな需要への対応により、収益確保の下支えができたほか、ここ数年苦戦が続いていたバラエティ雑貨業態を廃止することにより、次期以降の収益安定化の体制を整えることができました。

第37期におきましては、コロナ禍で苦戦が続いておりますアパレル事業の立て直しに最優先で取り組むとともに、成長事業への投資を継続することで新型コロナウイルス感染症収束後の再成長に向け、全社をあげて反転攻勢をかけてまいります。

なお、当期の期末配当金につきましては、第3四半期以降新型コロナウイルス感染症は収束に向かい、消費環境は改善するとの見通しから3円の配当を予定しておりましたが、冬以降の感染再拡大を受け想定以上に業績が低迷したことから、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げるとともに、厳しい経営環境ではありますが、可能な限り早期に復配ができるよう業績の改善に尽力してまいります。

また、今後も当社グループにおきましては、引き続き企業の社会的使命を重視するとともに、企業統治並びにコンプライアンス体制の強化など、企業の質的向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後におきましても当社グループの事業戦略に、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q1 当連結会計年度の業績について お聞かせください

当連結会計年度の業績は、売上高182億57百万円(前年同期比24.2%減)、営業損失13億25百万円(前年同期は営業利益5億4百万円)、経常損失13億21百万円(前年同期は経常利益4億94百万円)、親会社株主に帰属する当期純損失は、18億80百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純利益3億50百万円)となりました。

当連結会計年度のアパレル事業におきましては、期初より新型コロナウイルス感染症の影響が顕在化し、4月には緊急事態宣言が発出されるなど、ファッション需要が高まる春休み、ゴールデンウィークに加え、夏休み期間中の客数減の影響により大幅な減収となりました。また、下半期につきましても年末年始商戦時期の外出自粛の影響が大きく、年間を通して苦戦が続きました。一方、雑貨事業におきましては、300円均一雑貨業態では出店拡大を継続し増収となったほか、バラエティ雑貨業態では衛生関連商品やルームウェアなどコロナ禍需要の取り込みも見られましたが、年間を通して客数減の影響が大きく、全社の既存店売上高前年同期比は75.0%にとどまりました。

利益面におきましては、アパレル事業での急激な売上減少で発生し

Q2 コロナ禍での黒字化に向けた施策について お聞かせください

今期も引き続きコロナ禍での業績回復を図るべく、「営業施策(基幹事業の立て直し)」、「成長施策(出店戦略、EC販売強化)」、「コスト削減、人財戦略」の3つの施策に取り組んでおります。

「営業施策(基幹事業の立て直し)」につきましては、当社の基幹事業である、アパレル事業の立て直しが最優先課題と考えております。前期は新型コロナウイルスの影響により、ファッション関連の需要が大きく落ち込み在庫バランスが急激に悪化したことから、滞在在庫の処分を急ぎました。今期におきましてはシーズン別の在庫を適正にコントロールすることを念頭に置き、当面はマーケット需要を慎重に見極め、過剰在庫による値下げリスクを回避しながら、QR(クイックレスポンス)生産による機動的な商品調達に努めております。また、コロナ禍で、地域ごと、店舗ごとに客数の回復状況の違いや、客層の変化が多みられることから、個別別に「適時」「適品」「適量」を維持、コントロールできる体制へと刷新し、店頭起点に立ち返ることでアパレル事業の早期業績回復を実現してまいります。

「成長施策(出店戦略、EC販売強化)」につきましては、アパレル事業においては新規出店を抑制しつつも、初期投資を抑えたローコストでの出店や、商業施設の空床を活かした催事契約での出店など柔軟に対応していく考えです。また、今期計画している20店舗の出店につきましては、引き続き雑貨の基幹事業である「illusive300(イルーシーサンマルマル)」

を持ち越し在庫の値下げ処分に加え、バラエティ雑貨の業態廃止に伴う在庫処分により、売上総利益率は前年に比べ4.0%低下しました。また経費面におきましては、休業措置等に対する公的支援の活用や賃料減額交渉など様々な手を尽くしましたが、経費は前年同期比83.3%にとどまり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも大幅な減益、赤字計上となりました。

店舗の出退店におきましては、アパレル事業では「Ludic Park(ルディックパーク)」、雑貨事業では「illusive300(イルーシーサンマルマル)」の主力ブランドを中心に新規で14店舗を出店する一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、業績の回復が困難と判断した店舗を中心に、91店舗まで退店を積み増した結果、当連結会計年度末現在の店舗数は410店舗となりました。

当期は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、最終年度であった「中期経営計画」を取り下げ、基幹事業の立て直しに注力してまいりました。今期、市場変化への対応の遅れを取り戻すべく、アパレル事業の店頭在庫改善を進めるほか、雑貨事業の「illusive300」につきましては、引き続き出店拡大を積極的に進めるなど、新型コロナウイルス収束後の再成長を見据え、まずは黒字化を必達させるべく各諸施策に取り組んでまいります。

を中心に考えており、次なる目標を170店舗、年商100億円に据え、早期実現に向けて経営資源を集中してまいります。

また、EC事業(ネット通販)におきましては、当期に他社サイトの再編を済ませ、今期は本格稼働させるとともに、引き続き自社サイトの販売強化として、ネット通販に特化したアパレルの新規ブランドを立ち上げるほか、主力のラージサイズ商品につきましては取り扱いアイテムを拡大するなど、これまでにない新たな取り組みを付加することで、当期に取り下げた「中期経営計画」の目標であった年商5億円の早期達成を実現してまいります。

「コスト削減、人財戦略」につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響から客数の減少が大きい店舗につきましては、引き続きデベロッパ様のご協力を頂きながら、個店単位での賃料減額交渉を継続するほか、新型コロナウイルスの影響で変動した個店ごとの売上高に見合った人員配置を徹底することで、固定費の軽減、適正化に努めてまいります。そして人財戦略については、全社の売上規模と、今後の成長戦略を踏まえ、本社、本部人員の再配置を進めるとともに、引き続き将来幹部候補の育成、新規採用については、これまでと同様に強化してまいります。

以上、今期におきましては、上半期中はコロナ禍の影響を受けながらも、下半期以降は消費環境が徐々に改善することを前提に、業績予想につきましては、売上高205億円(前年同期比12.3%増)、営業利益4億円(前年同期は営業損失13億25百万円)、経常利益4億円(前年同期は経常損失13億21百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益1億円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失18億80百万円)を見込んでおります。

アパレル事業の概況

アパレル事業におきましては、基幹事業の競争力向上と収益の拡大を目的に、新規ブランドの出店拡大に取り組んでまいりましたが、当期は新型コロナウイルスの影響を受け新規出店を抑制するとともに、不採算店舗の退店と基幹事業の立て直しに注力してまいりました。

当期におきましては、主カブランドの「Ludic Park(ルディックパーク)」6店舗に加え、「RecHerie(リシェリエ)」2店舗を出店しております。

今期はリアル店舗における接客サービスの充実並びにコロナ禍を踏まえた品揃えの強化に努め、EC事業(ネット通販)におきましても新規ブランドの開発に取り組むことから、新規顧客の獲得とリアル店舗への相互送客を図り、業績の回復に努めてまいります。

ルディックパーク



Ludic Park

遊び心を程よく取り入れた自分らしいファッションを、楽しくセレクトできるショップです。エレガンス・クール・カジュアルまで幅広い客層へ向けた最新トレンドと、着まわしのきくベーシックアイテムをお手頃プライスで提案します。

リルデシュシュ



Lilou de chouchou

いつまでもかわいく輝きたい女性に向けて、毎日のHAPPYを演出します。エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながらON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる上品で女性らしいファッションを提案します。

デイジーマリー



DAISY MERRY

大人の心と少女の心を持ち合わせたい女性になってもかわいくオシャレをしたい女性に向けて…かわいだけでなく、どこかボーイッシュ、ほんのりガーリーと、遊び心を取り入れた今欲しいリアルクローズを手頃なプライスで提案します。

リシェリエ



Recherie

「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

木糸土・ハレノヒ



木糸土

木・糸・土の素材を活かし、「無理なく、無駄なく」をコンセプトに、シンプルで飽きのこない生活雑貨を提案します。

Hare no hi

「ナチュラルライフ」をテーマに、アパレル、雑貨をトータルにコーディネート、ライフスタイルを提案します。

ギャルフィット



GAL FIT

「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。

スズタン



SUZUTAN

「エレガンス&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。

リジェイ・スプル



Re-J

「デイリー&リラックス」をテーマに、ベーシックアイテムとシーズントレンドを程よくMIXした「大人カジュアル」を提案するラージサイズSHOPです。

SUPURE

「フェミニン&カジュアル」をテーマに、上品さと着心地を大切にラージサイズSHOPです。

雑貨事業の概況

雑貨事業におきましては、引き続き300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」の出店が進行しており、コロナ禍におきましても店舗数は前期84店舗から94店舗へと着実に増加しております。

当期におきましては、「illusie300」6店舗を出店する一方、これ

イルーシーサンマルマル



illusie300

「日常に彩り」をテーマに、300円のプチプライスでライフスタイルを提案します。

インセンス



INCENSE

「MY BAGを探す楽しさや、見つけた時の喜びを共有できるBAG SHOP」。自分のスタイルを確立した大人の男女に、「オンリーワン」のバッグを提案します。

まで苦戦が続いておりましたバラエティ雑貨ショップ「Siebelet(シーベレット)」を廃止しており、収益改善に向け改革が進んでおります。

今期は基幹事業へと成長を遂げた「illusie300」に経営資源を集中し、同業他社との競争力強化に向け、更なるMD(マーチャンダイジング)の精度向上とオペレーション強化に努めてまいります。

シーベレット



Siebelet

「毎日、楽しく」をテーマに、話題性あるファンシー雑貨と生活雑貨を提案します。

アパレル事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当期末店舗数
レギュラー店舗	8	38	2	255
ルディックパーク、9スクエア	6	1	0	44
リルデシュシュ	0	1	0	8
デイジーマリー	0	0	0	4
リシェリエ、ドスチ	2	1	0	38
木糸土・ハレノヒ(※1)	0	2	0	16
ギャルフィット・スズタン他	0	33	2	145
ラージサイズ店舗	0	2	0	34
アパレル事業合計	8	40	2	289

雑貨事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当期末店舗数
イルーシーサンマルマル	6	5	9	94
シーベレット	0	28	△8	6
インセンス	0	13	△1	15
雑貨事業合計	6	46	0	115
複合店(※2)	0	5	△2	6
全社合計	14	91	0	410

(※1) 当期より「木糸土・ハレノヒ」をアパレル事業に含んでおります。

(※2) 複合店とは、アパレル事業、雑貨事業のブランドを複数合わせた店舗です。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (2021年2月20日現在)	前連結会計年度 (2020年2月20日現在)
■資産の部		
流動資産	5,070	5,525
固定資産	4,921	6,151
有形固定資産	1,319	1,486
無形固定資産	116	146
投資その他の資産	3,485	4,518
資産合計	9,992	11,677
■負債の部		
流動負債	5,514	5,117
固定負債	2,669	2,784
負債合計	8,184	7,902
■純資産の部		
株主資本	1,769	3,749
資本金	100	100
資本剰余金	1,979	1,979
利益剰余金	△280	1,673
自己株式	△29	△3
新株予約権	38	26
純資産合計	1,808	3,775
負債及び純資産合計	9,992	11,677

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 [2020年2月21日から 2021年2月20日まで]	前連結会計年度 [2019年2月21日から 2020年2月20日まで]
③ 営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,155	619
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー	76	△808
⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー	970	△118
現金及び現金同等物の増減額	△108	△306
現金及び現金同等物の期首残高	2,244	2,473
現金及び現金同等物の期末残高	2,135	2,244

連結損益計算書

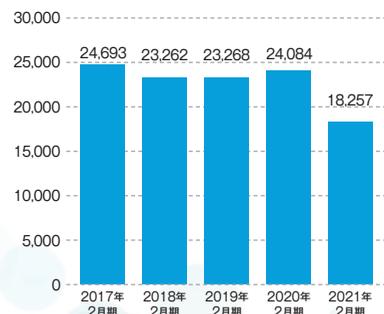
(単位:百万円)

	当連結会計年度 [2020年2月21日から 2021年2月20日まで]	前連結会計年度 [2019年2月21日から 2020年2月20日まで]
① 売上高	18,257	24,084
売上原価	8,863	10,714
売上総利益	9,394	13,370
販売費及び一般管理費	10,719	12,865
② 営業利益又は損失(△)	△1,325	504
営業外収益	27	17
営業外費用	23	27
経常利益又は損失(△)	△1,321	494
特別利益	346	1
特別損失	832	112
税金等調整前当期純利益又は純損失(△)	△1,807	383
法人税、住民税及び事業税	18	24
法人税等調整額	54	9
親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失(△)	△1,880	350

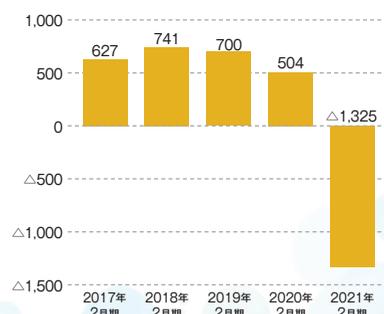
POINT

- 売上高は前連結会計年度に比べ58億26百万円減少の182億57百万円となりました。これは主に、新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により、既存店売上高前年同期比が75.0%にとどまったことに加え、不採算店舗閉店による店舗数減少によるものです。
- 営業利益は前連結会計年度に比べ18億30百万円減少の13億25百万円の損失となりました。これは主に、臨時休業に伴う売上高の減少と、それに伴う滞在在庫処分に加え、廃止したバラエティ雑貨業態の在庫処分も重なり、売上総利益率が前年同期比で4.0%減少したことによるものです。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ17億75百万円減少の11億55百万円の支出となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失18億7百万円の計上によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ8億85百万円増加の76百万円の収入となりました。これは主に、新設、既存店舗の改装など有形固定資産の取得による支出2億55百万円、退店による差入保証金の回収5億74百万円によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ10億89百万円増加の9億70百万円の収入となりました。これは主に、借入金10億75百万円によるものです。

売上高 (百万円)



営業利益(損失) (百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益(損失) (百万円)



注:2018年2月期第2四半期までは、旧パレモの数値を記載しております。

企業データ

会社概要 (2021年2月20日現在)

社名 パレモ・ホールディングス株式会社
 設立 1984年11月22日
 資本金 1億円
 本社所在地 〒450-0002
 愛知県名古屋市中村区名駅五丁目27番13号
 名駅錦橋ビル6F
 従業員数 2,248名(グループ含む)
 (ナショナル社員160名、エリア社員他2,088名)
 事業内容 事業子会社の経営管理等
 ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

役員 (2021年5月14日現在)

代表取締役社長 吉田 馨
 取締役 香西 雅弘
 取締役 福井 正弘
 取締役 竹中 幹雄
 取締役 永田 昭夫
 取締役 赤塚 憲昭
 常勤監査役 土田 新一郎
 監査役 平岡 繁
 監査役 今枝 剛
 監査役 川口 直也

注:取締役のうち、永田 昭夫、赤塚 憲昭の両氏は社外取締役であります。監査役のうち、今枝 剛、川口 直也の両氏は社外監査役であります。

株式情報 (2021年2月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	12,051,384株
単元株式数	100株
株主数	12,569名

大株主 (2021年2月20日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
エンデバー・ユナイテッド・パートナーズ・スリー投資事業組合	2,854	23.96
個人株主A	1,121	9.41
個人株主B	338	2.83
トラストワークスプランニング株式会社	285	2.39
パレモ従業員持株会	218	1.83
SMBC日興証券株式会社	217	1.82
個人株主C	135	1.14
サンラリー株式会社	120	1.01
個人株主D	76	0.64
個人株主E	72	0.60

注:持株比率は、当事業年度の末日における発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する割合であります。

株主構成 (2021年2月20日現在)

